

カジノに関する生活者意識調査 速報

日本にカジノができた場合、行ってみたい人は53.8%。 リゾート型が最も人気。

沖縄カジノへは、関東地方からの来場者を中心に、年間871万人の来場客数見込み。
リゾート型カジノでの平均掛け金は約4.2万円。

現在日本では、複合観光施設としてカジノの開設に関心が高まってきております。政党でも合法化へ向けた推進議員連盟が結成されているほか、自由民主党では観光特別委員会にカジノ・エンタテインメント検討小委員会が設置され、民主党でも娯楽産業健全育成研究会でカジノ導入の是非を検討しています。また、国会での議員立法の提出も想定されています。

博報堂カジノ・エンタテインメントプロジェクトでは、生活者のカジノに対する意識と実態を明らかにするために定期的に調査を行なっています。今回、2006年12月に全国20-60代男女8166名に対して新たに調査を実施し、その速報がまとまりましたのでご紹介致します。

今回の調査では、カジノ導入に伴い発生するリスクを諸外国ではどのように回避しているか提示した上での、カジノ合法化への態度変容を確認したほか、カジノのタイプ別の利用形態、消費動向など、今後議論を進めていく上で必要となる具体的な数値を明らかにし、各地のカジノ計画が事業としてどのようなポテンシャルがあるのかを明らかにしました。

この結果、日本でのカジノ合法化に対しては、40.3%の人が賛成と回答しています。また、カジノ設置による悪影響を防止するための各制度や施策もあわせて実施した場合は、賛成が64.0%と大きく向上することも明らかになりました。

そして日本にカジノができた場合に行ってみたいと答えた人は、53.8%となりました。特に、20代・30代男性の興味は強く、それぞれ約7割が行ってみたいと回答しています。

カジノをタイプ別に分けてニーズを探ったところ、最も「行ってみたい」数値が高くでたのがリゾート型（60.2%）でした。次いで、大都市型（58.0%）、温泉・大都市奥座敷型（52.4%）、テーマパーク型（53.4%）となっており、空港・空港隣接型は30.9%でした。

そのリゾート型の代表とも言える沖縄でのカジノについて、来場意向度、来場意向回数をベースとした年間来場客数を試算したところ、関東地方からの来場客を中心に、年間最大871万人となりました。またリゾート型の場合、平均賭け金額は約4.2万円となっており、飲食・エンタテインメント等の周辺消費も含めれば、合計約12.3万円の消費が見込めることとなります。

データ詳細につきましては、次ページ以降をご参照ください。

■博報堂カジノ・エンタテインメントプロジェクトとは

現在日本でも合法化に向けて議論されているカジノビジネスについて、生活者視点に立った調査をもとに、ビジネスモデルを検討する研究会です。日本におけるカジノビジネス実現に向けた、調査分析、情報発信、コンサルティング、カジノを含めた地域振興策の計画・推進を関係企業と協働で行ないます。

<本件に関するお問い合わせ>

博報堂	広報室	平澤・宮川	Tel 03-5446-6161
第一マーケティングセンター 島野		Tel 03-5446-8162	

<調査結果>

<調査概要>

調査対象： 全国の20-60代の男女 合計8166人(有効回収)
調査手法： インターネット調査
調査時期： 2006年12月

■日本でのカジノ合法化に対しては64.0%が賛成。

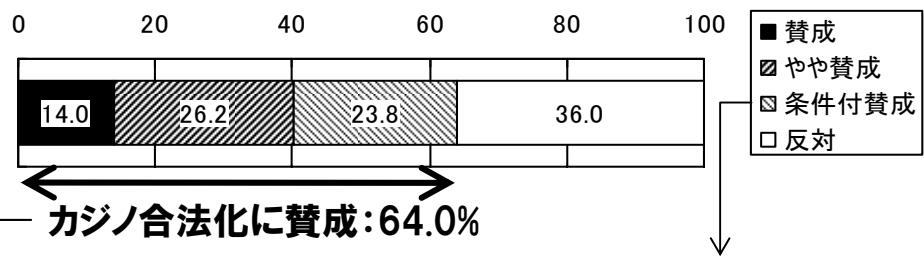
日本の法律を改正してカジノを合法化した上で、海外にあるようなカジノを設置することに対して、今回の調査では64.0%の人が賛成すると答えました。

このうち、特に条件なく賛成とした人は40.2%で、残りの23.8%は治安悪化防止・犯罪組織の関与防止・マネーロンダリングの防止など、各制度や施策もあわせて実施することを条件とした賛成です。カジノを合法化している多くの国で実施されているこうした悪影響防止の制度・施策については、今後、議論を深めていく必要がありそうです。

性年代別に見ると、20代・30代の男性が最も前向きで、約8割の人が賛成しています。一方、女性の50代・60代では約5割の賛成にとどまっています。

カジノ合法化への賛否

Q.最近日本でも、法律を改正しカジノを合法化した上で、海外にあるようなカジノを設置しようという動きがあります。あなたは、このことをどのようにお感じになりますか。



条件付許容層: カジノ合法化のみでは賛成ではないが、治安悪化防止・犯罪組織の関与防止・マネーロンダリングの防止などの各制度や施策もあわせて実施するという条件であれば賛成とした層。

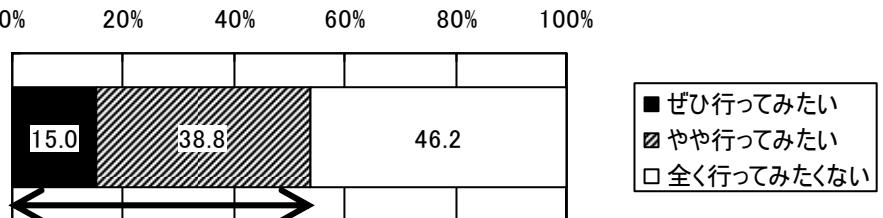
性年代別での傾向

	合計	20代	30代	40代	50代	60代
男性	72.8%	80.3%	79.0%	75.7%	66.2%	62.4%
女性	55.2%	61.4%	61.2%	55.7%	49.1%	49.0%

■日本にカジノができる場合に、行ってみたい人は53.8%

日本にカジノが設置された場合に行ってみたいかと尋ねたところ、53.8%の人が行ってみたいと回答しました。性年代別では、合法化に対する賛否と同様に、男性若年層で関心が高く、女性中高年層で低いという傾向が見られました。

日本にカジノができる場合の来場意向



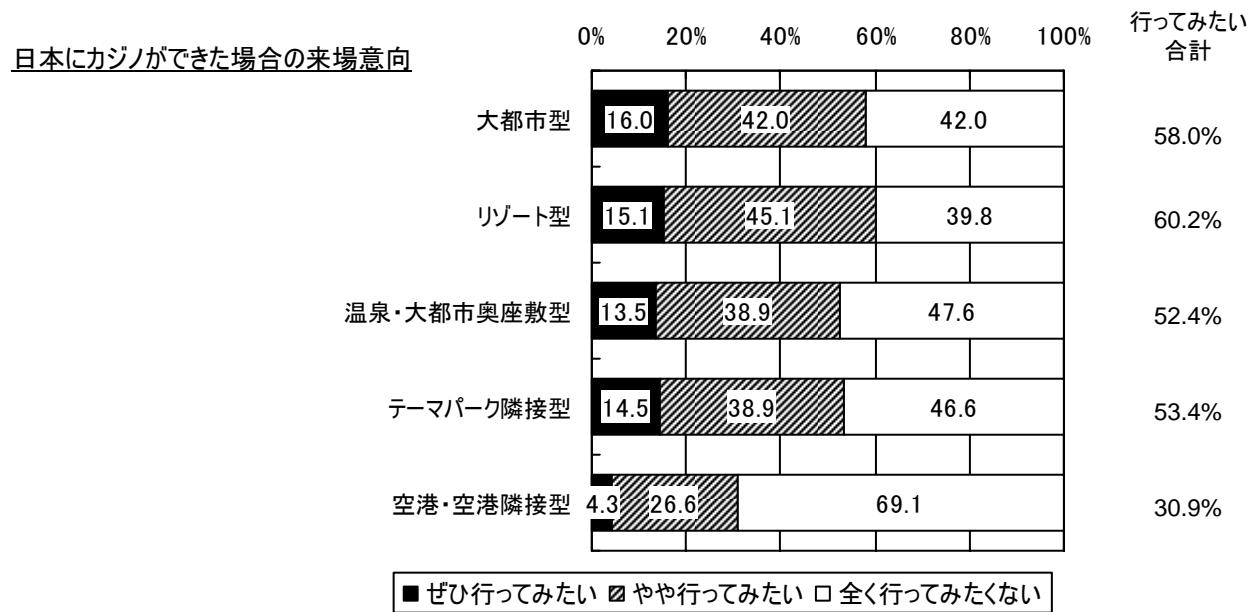
「行ってみたい」53.8%

性年代別での傾向

	合計	20代	30代	40代	50代	60代
男性	63.7%	73.1%	73.7%	65.6%	54.6%	50.3%
女性	43.9%	52.9%	52.6%	44.0%	37.8%	32.7%

■さまざまなタイプのカジノにニーズがあるが、最も人気があるのはリゾート型。

日本で構想されているカジノにはさまざまなタイプがあります。今回の調査では、これらの中で代表的なタイプの来場意向について明らかにしました。その結果、大都市型・リゾート型・大都市奥座敷温泉型・テーマパーク隣接型についてはそれぞれ5～6割の来場意向があり、各タイプに一定の需要性があることが明らかになりました。中でも、最も人気が高いのは、リゾート型(60.2%)でした。空港隣接型については、何らかの旅行目的がある際に立ち寄ることが多い場所としての立地特性上、やや低いスコアとなりました。



調査時の提示コンセプト

■大都市型 <大都市に隣接した地域に開設される大規模複合化型カジノ>

カジノ・ゲーミング機能に加えて、世界的に有名なホテル、ワールドクラスの多彩なエンターテインメントを提供するシアター、三ツ星クラスの有名レストランでの飲食、高級ブランドショッピングモール、大規模なコンベンション施設等を利用できます。※海外では「ラスベガス」などがこのタイプです。

■リゾート型 <ビーチリゾートや高原リゾート等の有名リゾート地域に開設されるカジノ>

海外からの観光目的の人たちも集客できる滞在型有名リゾートでの豪華なリゾートホテルでのカジノ・ゲーミングに加え、リゾートならではのメニューも楽しめるレストランでの飲食、様々なスポーツ施設、リゾート特有のスキューバダイビング、カヌー、フィッシング等の新しい体験もできます。※海外では「モナコ」「カンヌ」「ニース」などがこのタイプです。

■温泉型/大都市奥座敷型 <有名老舗温泉に開設されていくカジノ>

大都市の奥座敷ともいえる伝統のある有名温泉でのホテル・旅館での宿泊、老舗温泉街ならではの娯楽機能や土産物、そして温泉の効能を中心としての多彩なスパ施設、歴史的な建造物や博物館、美術館等の文化的な機能も楽しめます。※海外では「バーデンバーデン」などがこのタイプです。

■テーマパーク隣接型 <有名テーマパークに隣接したカジノ>

家族全員で遊べる多彩なエンターテインメントやアトラクション、イベント等で構成されているテーマパークの機能、そこに隣接するアーバンリゾート型のホテル施設、多彩な飲食機能そしてテーマパークならではのオリジナル商品のショッピングを楽しめます。※海外では「マレーシアゲンティングハイランド」などがこのタイプです。

■空港型／空港隣接型 <空港内あるいは空港隣接エリアに開設されるカジノ>

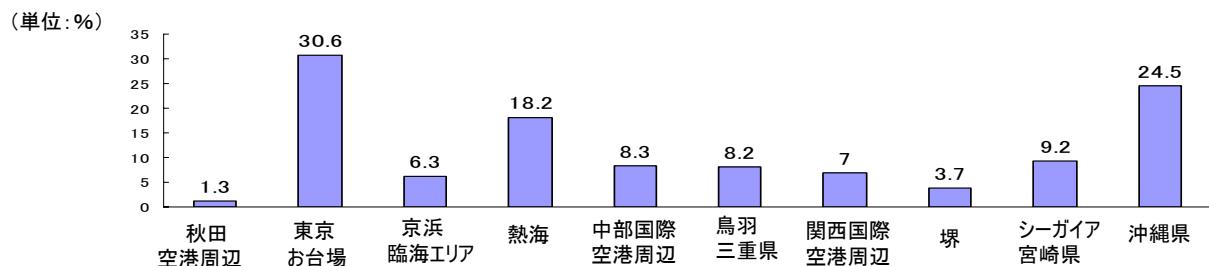
空港内、あるいは空港隣接エリアに開設されますので、空港の様々な機能、例えば、免税品の購入、空港内の様々なショッピング、レストランでの飲食、隣接したホテルでの宿泊が利用できます。また、空港周辺に立地することの多いゴルフ場の利用にも便利です。※海外では「オランダスキポールエアポート」などがこのタイプです。

■リゾート型カジノの代表ともいえる沖縄でのカジノへは、関東地方からの来場客を中心、年間最大871万人の来場見込み

全国各地のカジノ候補地の中で、沖縄県にできた場合の来場意向は24.5%でした。このスコアは、東京お台場の30.6%に次いで高い結果となっており、リゾート型カジノの人気を裏付けているといえそうです。

また、沖縄でのカジノについて、平均来場意向回数などを加味した年間来場見込み客数は、最大871万人となりました（下記試算結果参照）。来場意向者の中心は関東地区からで、37.9%を占めています。

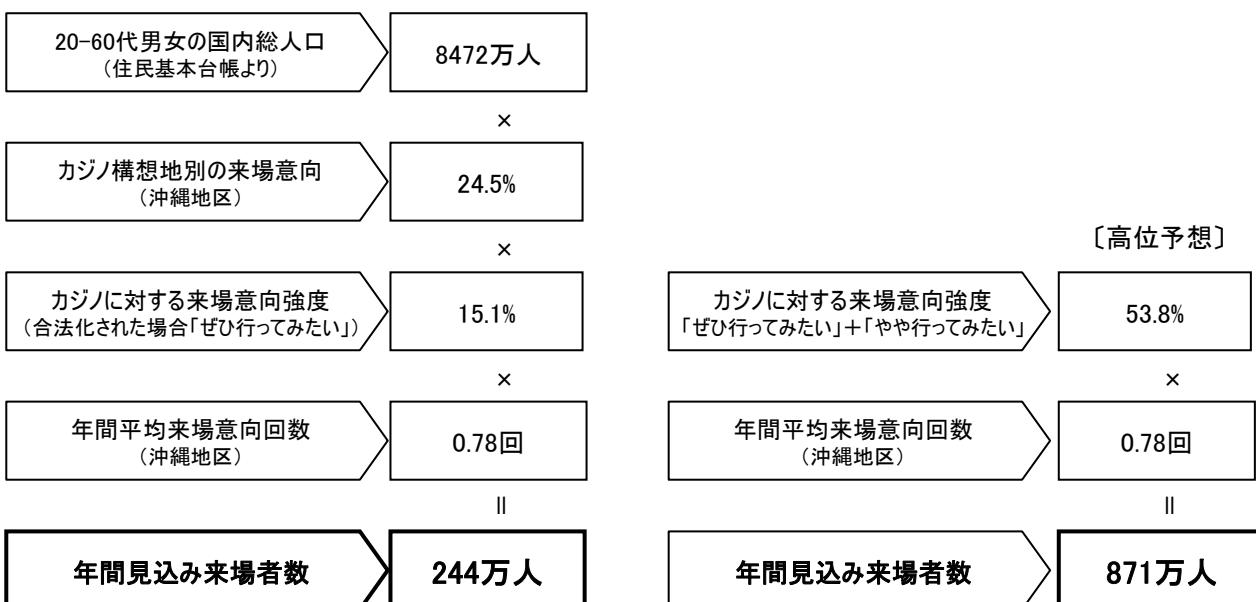
主要候補地の利用意向度



沖縄への来場意向者の居住地



年間来場客数の試算



※さらに海外からの利用者も見込まれますが、今回の試算には含まれていません。

■リゾート型カジノでの平均賭け金額は約4.2万円。飲食・エンターテイメント等の周辺消費を含めると合計約12.3万円の消費を想定。

カジノへの来場意向者に対して、カジノに行った場合に、1回当たりどの程度のお金を使いたいと思うか聞いてみた結果、リゾート型では、カジノそのものに対して4.2万円、飲食やエンターテイメントまで含めた全滞在では12.3万円という結果がでました。カジノゲームだけではなく、その周辺領域に消費活動にまで広がりがみれられることが明らかになりました。これはカジノが、日常生活からは離れたいわば「ハレ」の場として認識され、食事、ショー、ショッピング、リラクゼーションなどのさまざまな体験を促すきっかけになると認識されているということと思われます。

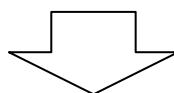
また、リゾート型の特徴としては、カジノだけではなく、ホテルへの想定支出が他のタイプに比べて高いことがあげられます。

リゾート型カジノへの来場パターンの代表的な意識

来場頻度	「年に1回程度」 43.1%
同行者	「友達など仲間と」 41.0% 「夫婦で」 39.7%
滞在期間	「2泊3日で」 43.9%

リゾート型カジノへの来場時の1回あたりの平均想定消費金額

カジノ(チップやコインにかかる予算の合計額)	42,150円
ホテル・宿泊	37,210円
エンターテインメント(ショー・コンサートなど)	10,050円
レストランでの飲食	16,200円
ショッピング	16,910円
合計	122,520円



リゾート型の楽しみ方:

「年に1回、2泊3日で、仲間や夫婦で豪華なリゾートホテルの滞在を楽しみに行きたい。」

■大都市型

来場頻度 「年に1回程度」33.8%
同行者 「友達など仲間と」49.9%
滞在期間 「日帰りで」38.9% 「1泊2日で」38.0%
想定宿泊金額 約2.1万円
想定カジノ金額 約3.9万円
想定消費金額合計 約10.4万円

「年に一回から数回日帰りで、大規模な複合カジノで、ワールドクラスの多彩なエンタテインメントを楽しみに行きたい。」

■温泉型/大都市奥座敷型

来場頻度 「年に1回程度」41.5%
同行者 「友達など仲間と」41.6%
滞在期間 「1泊2日で」64.9%
想定宿泊金額 約2.5万円
想定カジノ金額 約3.1万円
想定消費金額合計 約7.9万円

「年に1回、1泊2日で、温泉旅館やホテルでゆったり入湯し、カジノも楽しみたい。」

■テーマパーク隣接型

来場頻度 「年に1回程度」43.6%
同行者 「家族で」61.1%
滞在期間 「1泊2日で」45.7%
想定宿泊金額 約2.2万円
想定カジノ金額 約2.8万円
想定消費金額合計 約8.4万円

「年に1回、1泊2日で、家族みんなでアトラクションやエンターテインメントを楽しみに行きたい。」

■空港型／空港隣接型

来場頻度 「年に1回程度」33.9%
同行者 「友達など仲間と」44.5%
滞在期間 「日帰りで」62.1%
想定宿泊金額 約1.1万円
想定カジノ金額 約2.8万円
想定消費金額合計 約7.0万円

「年に1回、日帰りで、免税ショッピングをしてもよいかも。」